

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博 士 （ 教育学 ）	氏名	河 野 晋 也
学位授与の要件	学位規則第4条第1・2項該当		
<p>論 文 題 目</p> <p style="text-align: center;">ESD の授業実践による価値観の変容 － 批判的思考力に着目して －</p>			
<p>論文審査担当者</p> <p>主 査 教 授 由 井 義 通</p> <p>審査委員 教 授 棚 橋 健 治</p> <p>審査委員 教 授 木 村 博 一</p> <p>審査委員 教 授 草 原 和 博</p> <p>審査委員 准教授 熊 原 康 博</p>			
<p>〔論文審査の要旨〕</p> <p>序章 研究の意義と目的</p> <p>持続可能な開発のための教育(ESD)の中心的課題は、既存の価値観を持続可能な社会を形成する価値観へと転換することである。先行研究の検討では、学習者がもともと持っている価値観がどのように「持続可能な社会の担い手としての価値観」へと変容していくのかという理論を従来の研究が明確に示していないことを課題として指摘した。さらに、価値観と行動の変容を目的とする ESD が十分に実施されていないことを踏まえて、学校現場において、どのように価値観の変容を促すかという点が課題として残されていることを指摘した。ESD においてどのような資質・能力を育むことが学習者の価値観の変容を促すかについて研究することは、意義があると考えられる。</p> <p>本研究は、ESD は持続可能性と言う価値観が外部に明確に存在すると考えて、それを内化していく取り組みではなく、学習者の内部に持続可能性の価値観を構築していく取り組みであると考えた。また、ESD における価値観変容は、学習者が自身の価値判断を批判的に見直し、価値観を構築していく力を育成することによってなされるもので、学習者の価値観の変容を目的とした資質・能力を育成することが重要であるとした。そこで本研究では、ESD において育むべき資質・能力に着目し、どのような資質・能力が学習者の価値観変容を促すのか、さらに、どのようなプロセスを経て価値観が変容していくのかを明らかにすることを目的とした。</p> <p>第一章 ESD における批判的思考力</p> <p>第一章では、複数の資質・能力の基盤となる能力として、批判的思考力を位置づけた。その上で、ESD において育むべき批判的思考力とは何かを先行研究のレビューによって明らかにした。ESD において取り扱われる課題には、複数の解が存在したり、立場や状況によって望ましい解が変わってしまう課題も多い。見出した解の妥当性について批判的に検討していくことが求められる。そのため、ESD においては批判的思考力を育むことが</p>			

重要であると考えている。

第二章 批判的思考力を基盤に据えた ESD における資質・能力

第二章では、ESD において育むべき資質・能力について、未来像を予測して計画を立てる力や多面的、総合的に考える力など多様な資質・能力が想定されている。現代社会の諸課題は、複雑で原因が不明瞭であり、こうした課題解決に取り組むためには、学習全体を通して多様な思考力を働かせ、育んでいくことが求められる。そこで本章では、ESD で育むいくつかの能力のうち、批判的思考を基軸として整理分析し、様々な能力を統合的に働かせる必要があることを論じた。なかでも多様な資質・能力のうち、長期的思考とシステム思考を例として概念整理を行い、批判的思考との相互関連性について論じている。

第三章 価値観の変容を促す状況的学習

第三章では、どのような学習環境において、自身の価値観やライフスタイルについて批判的に見直すことができるようになるのかについて論じている。ESD においては地域教材の活用や社会参画など、文脈に即した学びが重視されるので、具合的な状況において問題や対処法を見付け、構築していくこと、解決に向けて具体的な行動を選択していくことが求められる。本章では学習者の変容を促す批判的思考を働かせる学習デザインとして、状況的学習論を援用した、総合的な学習の時間の実践を行い、考察した。

第四章 ESD における素朴概念の転換による価値観の変容

第四章では、コンフリクトを経験した学習者がどのように価値観を変容させていくのかというプロセス、つまり学習者の内面において、どのように批判的思考が働き、価値観が変容していくのかについて論じている。素朴概念は非常に強固であり、価値観の変容を妨げることがある。価値観を変容させていくためには、自身にとって当たり前のことである素朴概念を批判的に吟味する必要があることを指摘している。

終章 研究の総括

各章の分析と考察結果から、ESD の課題として、本来能力開発にとどまらない全人的な発達や組織全体での変容が強調されるべきであるのに、現状では ESD の多くの実践授業においてその本質が反映されていないことを指摘し、複数ある資質・能力の相互関連性を明らかにすることを試みた。

本論文は、以下の 3 点で高く評価できる。

第 1 は、ESD で育むべき資質・能力、持続可能な社会の担い手として学習者を変容していくために必要な資質・能力について、批判的思考力を基盤として位置付けたことである。価値観の変容について批判的思考力の育成から授業開発に取り組んだ点は先見的であり評価できる。

第 2 は、ESD で育む資質・能力、特に批判的思考が、どのように価値観の変容に資するのか、学習環境と変容の学習方略について授業実践から明らかにしたことである。

第 3 は、学習者が自身の強固な素朴概念を再構築していくことができるよう、資質・能力を育むとともに、批判的に自己を見直すことができる学習環境と学習方略について明らかにしたことである。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（教育学）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。